



各 位

平成 26 年 7 月 31 日

東京都江東区豊洲五丁目 6 番 52 号

株式会社オートバックスセブン

代表取締役 社長執行役員 湧田 節夫

[コード番号 9832 東証第一部]

問い合わせ先 経理・財務部長 平賀 則孝

TEL 03-6219-8829

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 26 年 5 月 8 日に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想数値の修正

(1) 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	104,700	3,900	4,800	3,100	34 63
今回修正予想 (B)	98,100	1,400	2,400	1,300	14 86
増減額 (B-A)	△6,600	△2,500	△2,400	△1,800	—
増減率 (%)	△6.3	△64.1	△50.0	△58.1	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期実績)	103,740	4,464	5,591	2,988	32 59

(2) 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	83,100	4,700	4,600	51 37
今回修正予想 (B)	78,200	3,300	4,000	45 70
増減額 (B-A)	△4,900	△1,400	△600	—
増減率 (%)	△5.9	△29.8	△13.0	—

2. 平成 27 年 3 月期通期業績予想数値の修正

(1) 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	228,400	13,500	15,400	9,500	106 12
今回修正予想 (B)	221,800	11,000	13,000	7,700	88 01
増減額 (B-A)	△6,600	△2,500	△2,400	△1,800	—
増減率 (%)	△2.9	△18.5	△15.6	△18.9	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	231,697	13,944	16,421	9,786	107 71

(2) 平成 27 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	183,900	12,800	9,800	109 44
今回修正予想 (B)	179,000	11,400	9,200	105 12
増 減 額 (B-A)	△4,900	△1,400	△600	—
増 減 率 (%)	△2.6	△10.9	△6.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	183,758	13,330	9,370	103 10

3. 第 2 四半期累計期間業績予想修正の理由

(連結)

第 2 四半期累計期間の業績予想につきましては、平成 26 年 4 月からの消費税増税前にスタッドレスタイヤからノーマルタイヤへの履き替え需要が早まったことや、4 月以降の国内の自動車販売台数の減少に伴いカーナビゲーションの需要が低迷したことなどにより、第 1 四半期累計期間における国内の売上高および売上総利益が期初の予想を下回りました。7 月以降は販売促進施策を強化したことなどにより国内店舗の売上は改善傾向にあるものの、第 2 四半期においても、軟調な消費動向を背景に売上高は弱含むものと予想し、経費の見直しを行うことにより収益の改善に努めます。しかしながら、第 2 四半期累計期間といたしましては、第 1 四半期の収益の減少額が大きく、営業利益、経常利益、四半期純利益において期初予想を下回る見込みであります。

(個別)

連結業績と同様、第 1 四半期において店舗における売上の不振に伴い、卸売を中心に売上が期初予想を下回りました。当社といたしましては、第 2 四半期も軟調な消費動向を背景に売上高の減少を見込み、経費の見直しを行うことにより収益の改善に努めます。第 2 四半期累計期間といたしましては、第 1 四半期の収益の減少額が大きく、営業利益、四半期純利益において期初予想を下回る見込みであります。

4. 通期業績予想修正の理由

(連結)

事業環境といたしましては、自動車関連消費は第 3 四半期以降も弱含むものと予想します。当社グループといたしましては、国内オートバックス事業におきまして、中期経営計画の方針に沿って「クルマのワンストップ・サービス」業への転換に向けてお客様との接点強化を継続し、シェアの拡大を目指してまいります。また、そのための販売促進施策への注力を継続するとともに、あらゆる経費を見直すことにより、収益の改善を目指してまいります。この結果、下期の業績を期初予想通りとし、第 2 四半期累計期間の業績予想を加算し、通期の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、期初予想を下回る見込みであります。

(個別)

連結業績と同様、下期の業績につきましては期初予想通りとし、第 2 四半期累計期間の業績予想にこれを加算し、通期の売上高、営業利益、当期純利益につきましては、期初予想を下回る見込みであります。

なお、配当予想については期初の計画から変更はございません。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上